

# サガハイマツト通信

Vol.32

(2021年10月号)



**CONTENTS** ●塩山 善之 センター長 インタビュー  
重粒子線 がん治療選択肢の一つとして注目

●データで見るサガハイマツト  
・部位別患者数と地域別患者数

●定期的ながん検診を受けましょう

サガハイマツトの受診に関する相談窓口

電話 **0942-50-8812**  
(受付時間:平日の9時~17時)

メール [saga-himat@saga-himat.jp](mailto:saga-himat@saga-himat.jp)



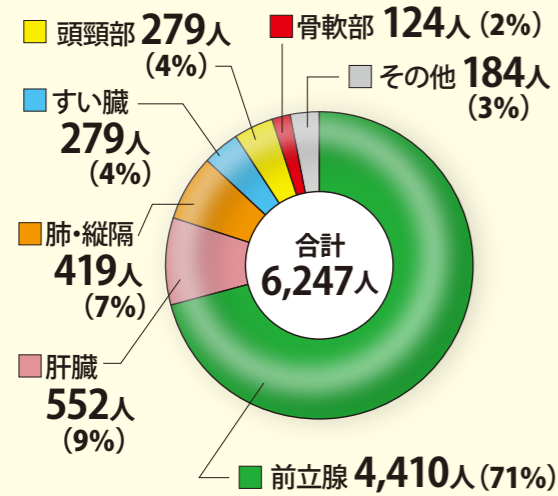
サガハイマツトは、九州国際重粒子線がん治療センターの愛称です

## データで見るサガハイマツト

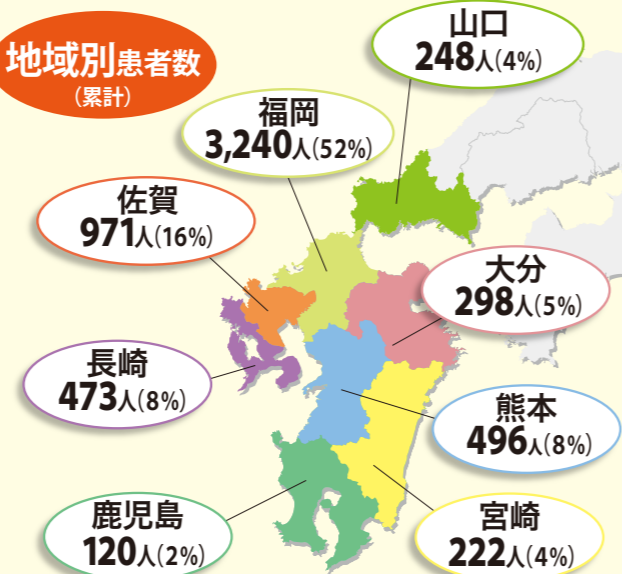
2021年9月末日現在

### 部位別患者数 (累計)

※その他は、直腸(骨盤内再発)、腎臓、リンパ節他



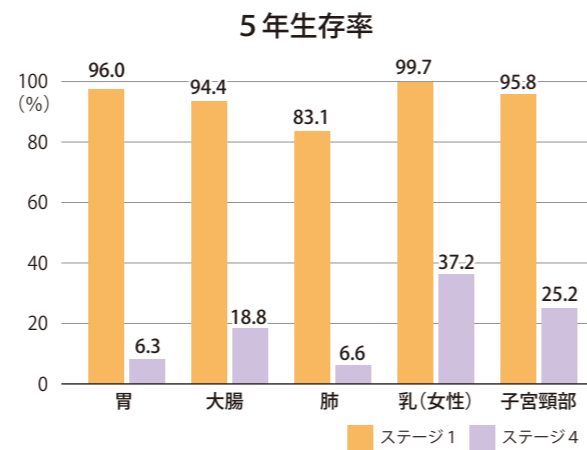
### 地域別患者数 (累計)



※東京、広島、沖縄、愛媛、愛知、大阪、高知、埼玉、京都、島根、岡山、神奈川、北海道、栃木、兵庫、群馬、三重、富山、静岡、奈良、福島、青森、海外(中国、台湾、韓国)

多くのがんは、早期発見で9割以上の方が治ります

“がん”からあなたや家族をまもるために、定期的ながん検診を受けましょう



出典:国立がん研究センターがん診療連携拠点病院等院内がん登録2012-2013 5年生存率集計報告書

### ●寄附をお願いします●

佐賀国際重粒子線がん治療財団では、引き続き皆さんからの寄附を募集しています。県内、ひいては九州のがん医療の充実につながるサガハイマツトへのご支援をよろしくお願いいたします。

なお、当財団へご寄附をいただいた方には、特定公益増進法人に対する寄附として、税制上の優遇措置があります。詳しくは、当財団までお問い合わせください。

### サガハイマツト通信 Vol.32

(2021年10月号)

【お問い合わせ】

発行 公益財団法人 佐賀国際重粒子線がん治療財団 (担当) 馬場

所在地 〒841-0071 佐賀県鳥栖市原古賀町 3049 番地

TEL 0942(81)1897 FAX 0942(81)1905

HP <http://www.saga-himat.jp/>

九州国際重粒子線がん治療センター(サガハイマツト)

# 重粒子線 がん治療選択肢の一つとして注目

## 塩山センター長 インタビュー

### 重粒子線治療の仕組み、 治療方法について

九州国際重粒子線がん治療センター(サガハイマツト)が2013年8月から治療を開始して丸8年を迎えました。治療開始以来、治療患者数も9月末現在で6247人となりました。当初、重粒子線がん治療はすべて先進医療として実施されていましたが、現在は三つの部位に公的医療保険が適用されるなど、がん治療の選択肢の一つとして注目されています。サガハイマツトが取り組む重粒子線治療の仕組みや治療方法などについて、塩山善之センター長に聞きました。

#### ■重粒子線がん治療の特徴を教えてください。

重粒子線がん治療は、エックス線などに代表される放射線治療法の一つです。重粒子線は、炭素イオンを光の速さの約70%まで加速させたもので、がんの病巣に集中的に照射します。線量集中性に優れ、がん細胞を殺す力が強く、難治性のがんにも有効性があります。また、がんのほかに基礎疾患などの病気がある人や高齢者など、手術のリスクが高い人にも向いています。副作用が少なく治療期間が短く、通院しながら治療できることから仕事や家庭への影響も最小限で済みます。

#### ■サガハイマツトでの治療対象となるがんを教えてください。

重粒子線がんの治療は、ひとつの部位に留まっている固形がんに適しており、サガハイマツトでの治療の対象となるがんは、頭頸部、食道、肺、肝臓、すい臓、腎臓、子宮、前立腺のがんや、骨、脂肪、筋肉にできた骨軟部腫瘍などです。直腸がんです手術後再発したものも可能です。

がんが転移して体中に多発している状態は治療対象とはなりません。また、胃や小腸、大腸などの消化管の壁にできたがんは、高い線量の放射線を当てると潰瘍ができることがあるので適していません。また、脳腫瘍も、正常な細胞と腫瘍の境目が分かりづらく、正常な細胞を傷つけるリスクが

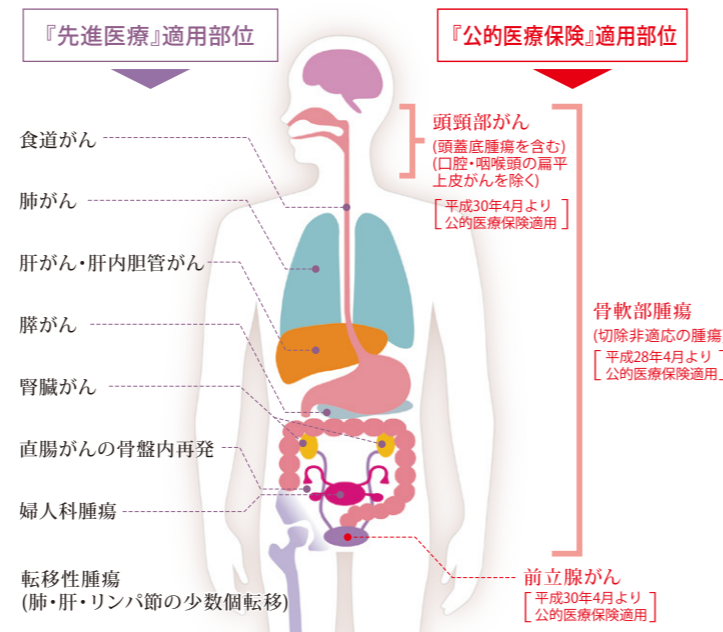
あるので対象外です。

転移したがんは適していないのですが、転移箇所が1、2カ所など限られている場合は、抗がん剤などと組み合わせて治療を行うこともあります。

#### ■サガハイマツトの治療の流れを教えてください。

がんが疑われた場合、大学病院や地域の拠点病院などを受診されると思います。がんと診断されたらステージ確定のための検査を行い、治療法を

重粒子線がん治療の対象となるがん



## 公的医療保険適用の拡大を目指す



九州国際重粒子線がん治療センター

センター長 塩山 善之氏

しおやま・よしゆき

1990年、九州大学卒、医学博士。九州国際重粒子線がん治療センターセンター長。放射線治療専門医(日本医学放射線学会/日本放射線腫瘍学会)、がん治療認定医・がん治療暫定教育医(がん治療認定医機構)

検討します。ここで、重粒子線がん治療が選択肢の一つとして提示され、患者さんが希望されたり、あるいは主治医の先生が勧められたりして、サガハイマツトに紹介、という流れです。そして、受診の希望があってから、2～3週間以内には受診できる体制を整えています。通常であれば受診してから治療の開始まで約1カ月となりますが、緊急性が高い場合は約2週間で治療を開始する場合があります。患者さんの希望や症状を見ながら、お待たせしないように努めています。

治療は、照射の際、体が動かないようにする必要がありますので、固定具を作るところから始まり、治療計画の作成などを行ったうえで治療開始となります。前立腺がんについては、症状によって重粒子線治療開始前に紹介元の医療機関でホルモン治療を先に行うこともあります。

部位別の照射回数は、肺や肝臓が4回、前立腺が12回、すい臓が12回、頭頸部や骨軟部が16回、子宮は20回などです。照射は1日1回、照射時間は1～5分ほどで、準備の時間を入れても20～30分程度です。照射回数が少ない部位では、1週間で治療が終了します。治療が終了したら、紹介元の医療機関と連携しながら長期的に経過を観察していきます。

#### ■前立腺がんなどに公的医療保険の適用が拡大され、重粒子線がん治療が県民にも身近

になりました。治療費はどのくらいかかりますか。

現在、重粒子線がん治療には、骨軟部、頭頸部の一部、前立腺の三つの部位が公的医療保険の適用となりました。患者さんの所得や年齢などに応じて負担額は変わりますが、高額療養費制度を利用すると、標準所得の家庭ではおよそ10万円程度で治療を受けることができます。

三つの部位以外の重粒子線がん治療は、先進医療としての治療となり、照射の回数に関係なく、治療費用の314万円が自己負担額となります。ただ、先進医療を受ける場合、佐賀県のがん先進医療受診環境づくり事業による支援や民間保険の先進医療特約等への加入で、自己負担額を抑えることも可能です。

#### ■今後の重粒子線がん治療の展望についてお聞かせください。

公的医療保険適用部位の拡大が最大の課題です。今は三つの部位に適用されていますが、より多くの部位に適用されて、さらに重粒子線がん治療を受けやすくする環境整備が必要です。国の財政が厳しい状況ではありますが、今回の診療報酬改定で部位が拡大されるよう、国内の重粒子線がん治療施設や学会とも連携し、これまでの治療実績をデータにまとめ、有用性を訴えていきたいと思っています。

また、特に女性の患者さんに、重粒子線がん治療という選択肢もあることを訴えていきたいと思っています。現在、サガハイマツトでは、子宮がんの治療も対象ですので、さらに周知を図りたいと思います。女性特有の乳がんに対しても、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構QST病院では臨床試験が始まっています。今の乳がんの治療法は、手術が主流ですが、将来的には重粒子線がん治療も一つの選択肢になるかもしれません。

今後、重粒子線がん治療が男女を問わず幅広い層でがん治療の選択肢の一つとして検討されるよう、症例を積み重ねながら、情報発信していきたいと思っています。